

新年度がスタートして3か月が過ぎ、子どもたちも保護者の方も少しずつ新しい生活が落ち着いてきた頃ではないでしょうか。6月6日（土）、3月に卒園したばかりの小学1年生を園に招いて「**子どものための懇談会**」を開催しました。これは、小学校生活が始まった子どもたちの生の声を聞きたいと、毎年行っている大切な集まりです。昨年度のぞう組担任・鳥羽ちゃん（現在はアトム勤務）を中心に、保護者の方も一緒に、まずは昨年みんなで畑に植えたジャガイモの収穫からスタート！立派に育ったジャガイモを嬉しそうに掘り起こし、ぞう組の部屋に集まって、輪になって子どもたちだけの懇談会が始まりました。

「学校はどう？」と尋ねると、みんな様に「楽しいよ！」と明るい返事。大きな戸惑いはなさそうで安心したのですが、「保育園のときと比べて、学校との違いはある？」と一歩踏み込んで聞いてみると、本音がポロポロとこぼれ出しました。「あんまり遊ぶ時間が少ないねん……」外で自分たちが自由に遊べる時間がほとんどないことに、次々と不満（？）が飛び出します。もちろん、ずっと不満を引きずっているわけではなく、子どもたちなりに学校のルールに折り合いをつけて頑張っているようです。そんな中、みおちゃんが「みおな、あんまり怒られんように頑張ってる」と教えてくれました。ぞう組の頃は少しのんびり屋さんで、みんなから声をかけられることも多かったみおちゃん。まわりの友だちも「そうそう、みお、あんまり怒られてへんわ」と温かく認め合います。「そっか、みんなそれぞれ新しい場所で頑張ってるんやね！」と伝えると、「そりゃあ、そう！みんな頑張ってるわあ」と、なんとも頼もしい返答が返ってきました。1時間ほどの懇談会が終了した後、「なあなあ、ちょっと遊んでいい？」と子どもたち。いつも遊んでいた中園庭へ飛び出していき、サッカーをしたりターザンロープをしたり、それぞれが伸び伸びと自由に遊び始めました。お迎えに来た保護者も「しょうがないかあ（笑）」と見守る中、「子どもたちなりに頑張ってるっていう心の声が聞けたよ」と保育士から伝えると、「そうかあ、やっぱりそうか。」「うちの子もなんかそんな気がしてたねん。」と園のホールに座りだすと保護者どうしのプチ懇談会が始まり、あっという間に1時間が過ぎていきます。小学校という新しい社会で一生懸命に頑張っている子どもたち。だからこそ「自由に、自分たちのやりたいことをたくさん遊ぶ」という幼児期の体験が、彼らの心の根っこを支えているのではないかと改めて教えられた気がします。

卒園すると大人たちも学校と我が子だけの関係になりがちですが、共に過ごした家族間どうしの交流は、親の気持ちもほぐれ、子どもたちの心の声に気づくきっかけになったのではないかと思います。子育てにおいて、ひとつの家族だけで悩みを抱え込むのは大変です。時には少し視点を広げて、みんなで子どもたちの姿を見守ることも大切です。そのため、様々な世代の大人たちが集まり交流を深める「**祖父母交流会**」も6月に開催しました。孫育ての悩みや世代間のギャップについて語り合い、おじいちゃん・おばあちゃんから「今の若い人たちは頑張っている！」と温かいエールをいただきました。また、懇談会にハードルを感じるお父さんの声から生まれた「**パパ・クッキング**」では、親子で気軽に楽しむことを目的とし、我が子のペースに翻弄されながらも一生懸命に奮闘するお父さんたちの姿が印象に残っています。さらに、子どもの特性や困り事に悩む保護者と職員が語り合う「**おたけびの会**」も新たに名称が決定し、今後も継続して開催していく予定です（詳細は別ページをご覧ください）。家族の悩みも共有しながら、みんなで子どもの生活を見守り、つながり合う。6月は、そんな温かい集まりの機会が多い1か月だったと思います。

そして私たち職員も、月末に姉妹園・アトム共同保育園との合同職員会議を行いました。職員一人一人がクラスのことを振り返り、悩みや課題を共有しました。子どもたちにとっての大切な乳幼児期の体験は保育の中で何が大切か？そして大人たちが繋がりあえるために、私たちができることは何か？職員間の連携について引き続き探っていきたいと思っております。